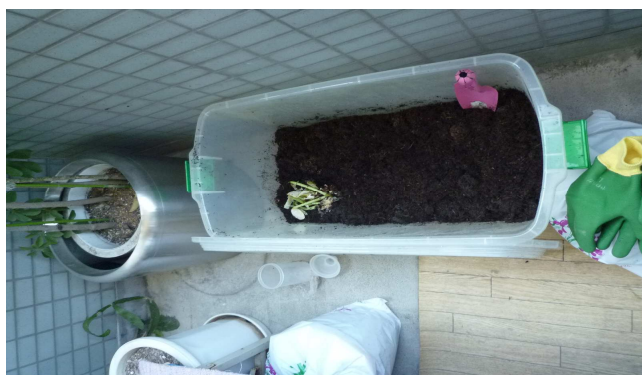


自宅のベランダでたい肥づくりにチャレンジしませんか？



「たい肥の素」を入れる



生ごみを入れる



よくかき混ぜる。 2～3ヶ月で完成☆

生ごみが資源に
生まれ変わります！

＜用意するもの＞

- ①深めのプラスチック製衣装ケース
- ②「たい肥の素」(リサイクルセンターで配布しています)
- ③生ごみ
- ④虫除けネット(農業用の^{かんれいしや}寒冷紗など)
- ⑤シャベル
- ⑥寒い時期には保温用の古毛布など

＜作り方＞

- ①プラスチック製衣装ケースに「たい肥の素」を入れる
- ②台所から出る生ごみを入れる(大きい物は小さく切る)
- ③よくかき混ぜて空気を含ませる
- ④2～3ヶ月で完成

- * 衣装ケースの3分の2程度の量になったら生ごみを入れるのを終了して2～3ヶ月熟成させてください。
- * 雨に濡れないところで保管してください。

ベランダたい肥づくりの特徴

- ①概ね75×40×35cmの大きさの衣装ケースと「たい肥の素」を使用します。
- ②処理可能な生ごみは人が噛み砕くことができるものです。(骨や種は不可)
- ③冬場は休眠期なので、生ごみを入れるのは概ね3月から10月までとなります。
- ④好気性バクテリアにより生ごみをたい肥化しますので、少なくとも2日に1回は全体をよくかき混ぜ、空気を含ませます。
- ⑤生ごみの処理能力には限界があり、生ごみの発酵具合を見ながら、入れる量を調節する必要があります。
- ⑥せん定枝特有の匂いにより、生ごみの腐敗臭はほとんど発生しません。
- ⑦春から夏にかけて、小さな羽虫が多数発生することがあります。
- ⑧休眠期(11月～2月)に入れるものはお茶がら程度にし、1～2週間に1回は全体をよくかき混ぜ、空気を含ませます。

ちょっとヒント！

- * 乾燥したら、ぬるま湯をかけてあげましょう。全体にジメジメ感があるといいです。
- * 生ごみを入れるとき以外は、網の目が細かい虫除けネットでふたをしておきましょう。小さな羽虫のようなものは発生することがありますが、蓋をすればハエは発生しません。
- * 好気性バクテリアとは酸素を使用して有機物を分解する微生物です。

*ベランダたい肥にチャレンジしてみようと思う方は、下記までお問い合わせ下さい。

問い合わせ先

立川市ごみ減量推進課

☎523-2111 内線 6755

リサイクルは、廃棄物に手を加えて再び暮らしに活かしていく知恵です！ちょっと面倒くさいことの、ちょっとした積み上げが、大きな力になります！